

会員の広場



福山「誠之館」^{せいしかん}と阿部正弘公

廣中 聰（東京）

「誠之館」は、日米和親条約交渉の日本側責任者阿部正弘が、地元の福山に1854年既存の弘道館を改組して設立した藩校です。校名の由来は、「中庸」第四段の「誠者天之道也 誠之者人之道也」（誠は天の道なり之道を誠にするは人の道なり）からとられ、個人

の修養を目指した命名です。

私は、高校入学時には、校名の由来、歴史について知りませんでした。初めて意識したのは、入学後、梅棹忠夫の「福山誠之館」を読んだ時です。雑誌中央公論の「日本探検シリーズ」で最初に取り上げられた小論です。江戸時代260校あまり設立された藩校の一例として教育史的な分析、現地への探訪、東京と福山のかかわりなど叙述されています。「地方原理」より「中央原理」の強かった誠之館の伝統を意識しひいては、世界と日本という視点を持ち、東京行きへの進路決定をし、ビジネスマンとしても海外畑を選択するという影響を受けた文章です。

阿部家は、代々老中の家柄で単なる田舎大

名ではありません。正弘は、正精の六男に生まれながら、幼いころから才気煥発伶俐な名君の可能性を囑望され、兄正寧の養継嗣となりました。寺社奉行時代には、大奥の醜聞を収めたこと、美男でもあったことで受けを良くし、10年余の長期政権期大奥の反発はありませんでした。25歳で老中、27歳には老中首座（今の首相）となり、老大国のイメージのある徳川政権下、青年宰相として、幕末期の荒波の中幕政をリードしました。思い出されるのは、英国の大ピットの次男で、24歳にて最年少の首相になった小ピットが参照されます。米独立戦争敗退後、フランス革命、ナポレオン戦争の激動時に英国を率いました。教育史的にみると、備後の国（広島県東部）

は、全国区の文化人を輩出しています。例えば菅茶山、その弟子には頼山陽（日本外史）北条霞亭（鷗外の史伝小説の主人公）など。正弘は、欧米列強の強大な軍事力の背景には、進んだ科学技術があるという認識をもっており、洋学、軍法を特に重視しました。講演および質疑で直接お話を聞いた原田伊織氏、出口治明氏は、彼の出自を問わぬ人材登用などを高く評価されていますが、背景には、欧米列強の接近という日本国家の危機感があったと思われまます。

彼の肖像画は、誠之館高校記念館にペリーから贈られた天球儀、地球儀とともに校宝として飾られています。衣冠束帯に威儀を正した青年貴族のそれです。